



結核通信

Vol.11 令和元年5月

発行：練馬区保健所

シールぼうや

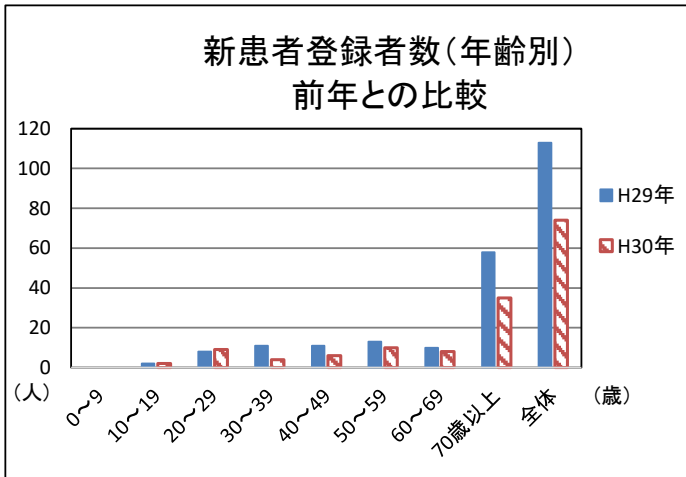
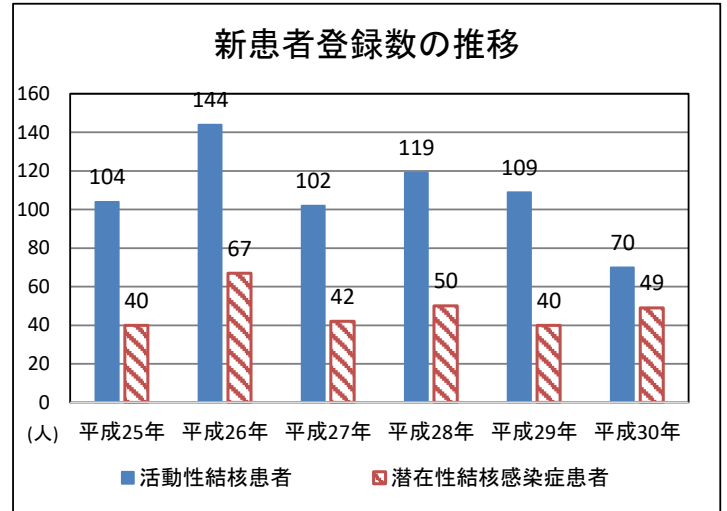
平成30年練馬区の結核の状況

<結核対策の状況>

平成30年の練馬区の新規結核患者数は、平成21年の164人をピークに順調に減少し、平成24年以降は100人台で推移しています。

新規登録患者	70名
再) 肺結核塗抹陽性患者	32名
その他の結核患者	38名
新規潜在性結核感染症患者	49名
り患率(人口10万人対)	9.5

※国の目標値である罹患率10以下を、初めて達成することができました。



新規患者は、70歳以上の割合が全体の約50%を占めています。

平成30年は、30代以上で患者が減少しました。毎年20代から60代までの世代の患者も、万遍なく発生しています。



ドッツ

DOTS(直接服薬確認療法)とは?

一人ひとりに合わせた方法で、服薬確認を行う服薬支援をDOTSといいます。

結核は服薬開始後、2週間~1か月経過すると症状が改善されますが、最低でも6か月~9か月間の服薬が必要です。理由として、結核菌は分裂速度が極端に遅いので薬の効き目が悪く、服薬を中断したり不規則になると、体の中に生き残った結核菌が勢いを盛り返し、結核が再び悪化(再発)したり薬が効かない菌(薬剤耐性菌)だけが生き残り増えてしまうからです。

結核対策では患者の重症化予防だけでなく、薬剤耐性結核をつくらず、周りの人を結核から守るためにも治療完了率を高めることが重要です。

多機関の協力を得ながらDOTSを実施しています!

【事例紹介】80代女性 病院のDOTS協力を得て治療を実施

結核の診断後に病院へ入院。ご本人の服薬管理が難しいため、病棟看護師の協力を得て内服を実施しました。内服確認後、服薬ノートに記載をしていただき、保健所からは月1回電話で内服状況の確認を行いました。途中副作用での休薬もありましたが、看護師の見守りのもと、飲み忘れなく内服を継続することができました。

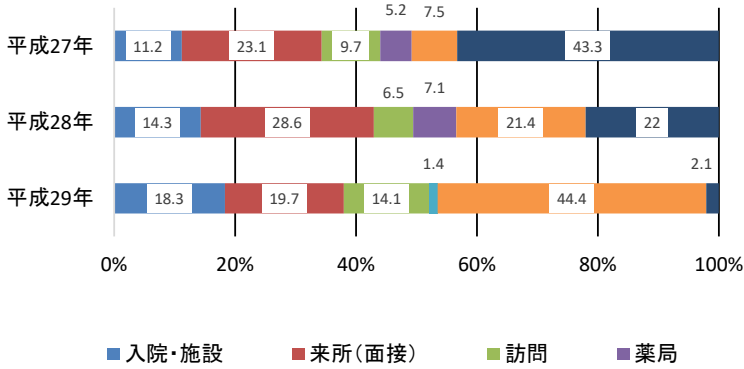
このように関係機関のご協力を得て、服薬支援を実施しています。

シールちゃん



それぞれの方に合わせたDOTS方法

DOTS方法 割合の推移



<DOTSの種類>

患者と保健所との相談により、全ての患者に対して個々の状況に合わせた服薬支援を行っています。関係者には、空袋の確認と患者への声掛け、保健所への連絡等をお願いしています。

- | 保健所 | 関係機関 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 来所(面接) 空袋郵送 | <ul style="list-style-type: none"> 訪問 メール 入院、施設 薬局 学校 |

近年、「電話・メール」での割合が減少し、「訪問」や「空袋郵送」での割合が増加しています。今後、より良い患者支援のため、対面でのDOTSを心がけていきます。

結核のまん延を防ぐための保健所の取り組み

感染症法により、結核を発病した場合、感染をまん延させる恐れが高い集団・職種を対象に、年1回の結核定期健康診断の実施と管轄保健所への実施状況の報告が義務付けられています。

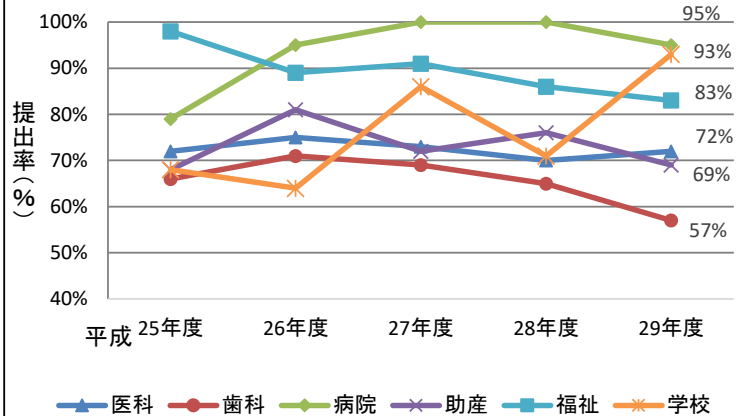
発病予防として健診をお受けいただくとともに、練馬区保健所への報告をお願いいたします。

<結核定期健康診断の実施と報告が義務付けられている施設>

- ・病院
- ・診療所
- ・歯科診療所
- ・助産所
- ・学校
- ・社会福祉施設
- ・介護老人保健施設

<期限> 毎年度3月末まで

練馬区の結核定期健康診断の提出率



関係機関の皆様へ・・・

医療機関の方へ

高齢者は基礎疾患があったり、典型的な呼吸器症状がない割合が多いため、診断の遅れにつながる恐れがあります。呼吸器症状がない場合でも結核の可能性を念頭にいただき、早期の喀痰検査の実施や呼吸器科へのご紹介をお願いします。

地域の関係者の方へ

保健所は、地域の様々な関係者の協力を得ながら患者支援を行っていきたくて思っております。

今後、介護サービスを利用されていない患者等については、薬局でのDOTSやDOTS支援員の充実などを検討し、最後まで服薬が完了できるようにしていきます。ご協力をお願いいたします。

特に支援が必要な患者

- ・高齢者(世帯)
- ・単身者
- ・他疾患のある患者
- 等



支援をお願いしている機関

- ・介護サービス
- ・訪問看護
- ・薬局
- ・入所施設
- ・医療機関

関係機関のみなさまと、結核のまん延防止、結核患者の治療完了のため、一層連携を強化していきたいと考えております。今後ともよろしくご協力をお願いします。